

コロンブス

MONTHLY COLUMBUS

ビジネスの新大陸を発見!

2019
JUL.
700円

廃プラ問題は地域の課題!!
レジ袋の有料化、小型焼却炉による域内処理など、
地域の力で廃プラ削減!!

G20で海洋プラスチックごみ削減に向けた初の国際的枠組みが誕生!!

課題先進国ニッポンが挑む

「廃プラ戦略」

特選銘柄

はたして日本は資源循環先進国か!?
滞留する廃プラ問題で試される日本のリサイクル能力

小岩真之・環境省 環境再生・資源循環局 廃棄物規制課 総括補佐

元気のぞる地域連携塾

これぞ財務局・財務事務所流!?
国有財産活用と広域観光連携による地域活性化

進化する農林水産政策

「農福連携」と「複合経営」で
新潟農業にイノベーションを起こす!!

阿部健治・北陸農政局 新潟県拠点 地方参事官室 総括農政推進官

特別編集顧問・浅野純次の
グローバル人間図鑑

国内外の理系・文系の研究者が
総力戦!

年間800万トンの
海洋プラスチック
ごみ問題をどうするか!?

道田 豊

東京大学 大気海洋研究所
国際連携研究センター長

経営者・住民目線による地域復興と あらたな地域づくりへの挑戦!!

今回の研究会のゲストスピーカーは、福島県富岡町生まれの遠藤秀文氏。2011年3月の東日本大震災と福島第一原発事故の後、本業である測量設計事業や建設コンサルタント事業を基盤としたさまざまな取り組みで、地元・富岡町の地域復興・地域づくりに尽力、現在もワインづくりによるあらたな地域産業創出に取り組んでいる。まさに、被災者が住民目線で被災地の「まちおこし」に着手する、この前例のない試みに、あらためてふるさととは何か、住民とは何かという問いを見た。そして「原発ゴミの処理と地域振興」というつぎなる課題を解くカギもそこにあるのではないかと、ということを実感した。

測量設計から 地域づくりへ

古川 遠藤さん、さっそくですが、本日は遠藤さんにこれまでの事業や活動についてお話しただきたいと思っております。

遠藤 秀文・ふたば代表取締役社長 富岡町は福島県浜通り、双葉郡の中心にある町で、福島第一原発と第二原発の間に位置しています。2017年4月1日に避難指示区域が解除されましたが、いまだに全国各地に町民が避難しています。避難者の居住地は県外が2600人で県内が9700人、このうちいわき市(5800人)と郡山市(2200人)にほぼ集中しています。震災時の人口は約1万6000人、現在は約10000人を超えたところ

私はこの富岡町に生まれ育ち、県立双葉高校を卒業した後は大進学のためいったん地元をはなれましたが、「35歳までには故郷に戻って地元の産業を元気にし、地域活性化に貢献しよう」と心に決めていました。大

その翌年には海外案件を初受注、「さあこれから」というときに起こったのが、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故でした。

被災1カ月後には、本社機能を福島県郡山市に移して何とか事業を再開したのですが、以前は21人いたスタッフが10人に、それでも「とくに甚大な被害を受けた浜通りを何とかしたい」と、事業再開の1カ月後には相馬市に、さらにいわき市にも事業所を設置し、これらの拠点で



富岡町の桜の名所。「夜の森の桜並木」

従来の建設コンサルタント事業に加えて、地域デザインやまちづくりの視点でさまざまな事業に取り組んできました。

そのひとつでメディアにも取り上げられて話題になったのが、富岡町の「夜の森の桜並木」の3Dデータ作成です。「夜の森の桜並木」はもともと県内有数の桜の名所で、国道6号線から夜の森公園に通じる道沿いに約2kmにわたって樹令約100年のソメイヨシノが並び、見事なサクラのトンネルを



遠藤秀文

えんどうしゅうぶん
株式会社ふたば 代表取締役社長

1971年、福島県富岡町生まれ。地元の高校を卒業後、進学、就職のため東京。東京の大手建設コンサルタントに就職。2007年に帰郷し、父が経営する測量設計会社(株)ふたば測量設計に勤務。11年3月11日の東日本大震災と福島第一原発事故の後、家族とともに岐阜県へ避難。10日ほどで県内に戻り、1カ月後には郡山市内で営業を再開。13年に(株)ふたばに社名変更。父は1997年から16年間にわたって富岡町長を務めた故・遠藤勝也氏。



東日本大震災から6年ぶりに富岡町へ本社を戻した際、地元木材を活用して建てられた新社屋。この社屋の建築計画がスタートした2015年当時、避難指示区域内の樹木を建築資材として用いた前例がなく、さまざまな困難があったそうだ。「先祖が植えた地元の山の木を使いたい」という遠藤さんの思いが結実した建物である。郡山の事業所も同様の素材で建てられている

面で故郷の桜並木の様子を見るだけでなく、VR装置で並木道を歩く仮想体験もできるようなしたところ、郡山市やいわき市などの避難者たちに喜んでもらうことができました。その後、町から帰還困難区域の集落や学校を3Dデータ化する仕事も引き受けたほか、効率的な放射線除染計画のためのドローン測量も提案しました。これはレーザースキヤナーやカメラ、線量計などの機器を搭載したドローンで山岳地帯の地形や植生、放射線分布といったデータを取得し、分析することで、重点的に除染すべきポイントを割り出すというものです。帰還が許されたからといって、地域全体がくまなく除染されているわけではなく、住居のすぐ裏の山や森はほとんど除染されていないのです。せっかく故郷に戻っても行動可能範囲が自宅の周囲だけというのはやりきれません。でも従来の面的・一律な除染方法ではとても追いつかないため、高度な測量によってエリア内で優先的に除染すべきポイントを見える化しようというわけです。

富岡町にあらたな ワイン産業を立ち上げる

今、富岡町ではコミュニティの崩壊と高齢化が深刻になって

いるうえ、かつて基幹産業だった原子力発電事業がストップし、廃炉に向かうなか、どのようにあらたな産業を起こすかが大きな課題となっていました。そこで私がもつとも力を入れて取り組んでいるのが「住民主体によるワインを通じてまちづくり」です。「町内の多様な食材を生かすワイン産業を立ち上げることで、もともと観光客や交流人口が少なかった富岡町に人を呼び込もう」という思いは、実は10年前から温めてきたものですが、震災後、さまざまな縁があって実現に向けて動き出すこととなりました。



富岡町のワイン用ブドウの圃場(小浜圃場)。海沿いであり、視察に訪れた人はみなバツグンの景観に驚くという

16年5月、私の思いに賛同してくれた農業者や会社経営者など町内有志10名で、任意組織「とみおかワイン葡萄栽培クラブ」を設立。メンバーはそれぞれ福島県の郡山市や三春町、いわき市、大玉村などに住んでいて、週末のたびに無人の富岡町に集まってブドウ栽培に取り組みました。みんな避難先で夢も希望も失っていたのに、故郷に戻ってひとつの目的のために汗を流すことにあらたな生きがいを見出してくれたので、それだ



ジョンソン・エンド・ジョンソンが農場管理ボランティアなどに参加。同社をはじめとして、CSR活動の一環でワインづくりプロジェクトのサポーターになってくれる企業も少しずつ増えているという



今年3月末に行われたブドウ苗木植え付けの様子。当日は福島大学農学部や福島市農業高校生徒、富岡町の小学生も参加、総勢約100人が集まった

めに、メンバーから出資を募り、一般社団法人「とみおかワインドメーヌ」を設立しました。いずれは株式会社化を目指していますが、現在はまだ試験栽培の段階です。ブドウでワインをつくれるようになるには植えてから4年以上かかります。また海のすぐそばという環境でのワインづくりの事例が日本にはないため、どういふ品種が根づくかをいろいろと試しています。この点に関しては、県内各地で県産ワインのブランド化を目指す動きがあり、9市町村のワイナリーやブドウ栽培団体などによる産学官連携組織も発足している。ヨコ連携による技術交流や情報交換を密にはかっています。

ワインづくりが地場産業として地域に根づけば、帰還した町民があらたにブドウづくりに取り組んだり、ワイナリーで働いたりすることができると期待しています。富岡町には困難な課題が山積していますが、そのような「課題先進地域」だからこそ、その解決に向けてさまざまな社会実証を展開できるという考え方もあります。あらたなワイン産業を立ち上げようという挑戦も、もちろんそのひとつです。富岡町はさまざまな先進課題を乗り越え、未来の「日本らしさ」を追求できる唯一のフロンティアです。これからも次世代の日本、そして世界のためにさまざまな事業を展開し、建設コンサルタントにとどまらない地域づくり、まちづくりを手掛ける「社会コサルタント」としての役割をはたしていきたいと思っています。

「廃炉後のまちづくり」に「廃炉後のまちづくり」に

だいた活動や事業はすべて、地域課題を「自分事」として捉えているからこそ手がけられるものだと思います。塩澤先生、お話を聞いていかがでしたか。

塩澤先生 東京大学名誉教授(農地環境工学) おっしゃるとおり、非常に多彩、かつ地域に密着した住民目線の取り組みの数々に敬服しました。さらに驚いたのは、ふたばが持つ3D測量の技術水準です。並みの測量会社にはできないものであり、はやい段階からグローバルな目で研鑽を積み、技術力を高めてきたのだと思います。国内市場が縮小の一途をたどっていくこれからの時代、世界市場を相手にするためには高度な技術力や高付加価値なサービスが必要

白井先生 遠藤さん、ありがとうございます。今日お話しした

白井先生 遠藤さん、ありがとうございます。今日お話しした

白井先生 遠藤さん、ありがとうございます。今日お話しした

白井先生 遠藤さん、ありがとうございます。今日お話しした

白井先生 遠藤さん、ありがとうございます。今日お話しした



第45回研究会メンバー

白井先生 遠藤さん、ありがとうございます。今日お話しした

白井先生 遠藤さん、ありがとうございます。今日お話しした